

ケアラー実態調査結果の概要

1 ケアラーの調査結果

(1) 世話をしている人の状況 【高齢・障がい調査 各P6 (5)】

高齢者を世話をしている人は「子ども」が、障がい者（児）を世話をしている人は「父母」の割合が高い。

区 分		世話をしている人				
		父母	夫・妻	子ども	孫	その他
世話をされている人	高齢者	0.7%	33.4%	<u>60.0%</u>	1.1%	4.8%
	障がい者(児)	<u>76.3%</u>	5.1%	8.1%	0.2%	10.3%

(2) 世話をされている人の状況

① ケアの内容 【高齢・障がい調査 各P11 (10-1)、(10-2)】

高齢者は、「家事援助」の割合が高く、障がい者では「体調管理」の割合が高い。
(複数回答)

	家事援助	通院援助	体調管理	書類作成等	金銭管理
高齢者	<u>86.5%</u>	82.2%	72.3%	70.3%	68.2%

	体調管理	日常生活の介護	通院介助	心の安定	家事援助
障がい者	<u>72.6%</u>	69.1%	65.8%	65.1%	65.1%

② ケアの頻度 【高齢・障がい調査 各P13 (11)】

高齢者及び障がい者のケアラーともに「毎日ケアをしている」人の割合が高い。

	毎日	週4～6日	週2～3日	週1日	月に2～3日
高齢者	<u>76.2%</u>	6.5%	7.9%	2.7%	2.4%
障がい者	<u>85.2%</u>	3.6%	2.2%	1.6%	2.9%

③ 1日あたりのケアにかかる時間 【高齢・障がい調査 各P14 (12)】

高齢者のケアラーでは「1時間以上3時間未満」の割合が高く、障がい者では「9時間以上」の割合が高い。

	1時間未満	1時間以上 3時間未満	3時間以上 6時間未満	6時間以上 9時間未満	9時間以上
高齢者	10.4%	<u>28.8%</u>	23.9%	11.3%	18.8%
障がい者	6.5%	19.2%	17.0%	9.8%	<u>39.8%</u>

(3) ケアラーの状況

① ケアラー自身の悩み 【高齢・障がい調査 各P15 (13-1)、各P17・P18 (13-2)】

高齢者及び障がい者のケアラーともに、自身の健康や介護疲れ、ストレスなど「自分自身のこと」の割合が最も高く、次いで、世話を必要としている人の健康状態などに関する事となっており、「サービスのこと」については、4割弱となっている。

(複数回答)

	自分自身のこと	世話を必要としている人のこと	日々の生活のこと	サービスのこと	世帯や家族のこと
高齢者	<u>92.7%</u>	86.8%	55.3%	<u>34.2%</u>	29.6%
障がい者	<u>97.3%</u>	90.6%	65.9%	<u>38.2%</u>	38.9%

② 現在利用している公的サービスへの満足感 【高齢・障がい調査 各P23 (18)】

高齢者及び障がい者のケアラーともに、「満足」「まあまあ満足している」の割合が大半となっている。

	満足	まあまあ満足	やや不満	不満	その他
高齢者	<u>39.3%</u>	<u>48.1%</u>	4.2%	1.3%	7.1%
障がい者	<u>27.8%</u>	<u>45.7%</u>	11.3%	4.2%	11.0%

③ 自分のための時間 【高齢・障がい調査 各P29 (24)】

趣味や休息など自分のための時間は、高齢者のケアラーでは「まあまあとれている」人の割合が高く、障がい者のケアラーでは「あまりとれていない」人の割合が高い。

また、「全くとれていない」人は、どちらとも、約20人に1人の割合となっている。

	とれている	まあまあとれている	あまりとれていない	全くとれていない	回答なし
高齢者	15.0%	<u>41.9%</u>	35.2%	<u>5.7%</u>	2.2%
障がい者	13.6%	34.7%	<u>42.3%</u>	<u>6.7%</u>	2.7%

④ 緊急時などに代わりにケアをしてくれる人の有無 【高齢・障がい調査 各P19 (14)】

緊急時などにケアラーの代わりにケアをしてくれる人としては、高齢者では、ケアラー自身の「子ども」、障がい者では、「配偶者」の割合が高い。

また、「誰もいない」人は、高齢者では約5人に1人、障がい者では約7人に1人の割合となっている。

(複数回答)

	自分の子ども	配偶者	兄弟姉妹	介護サービス事業者	誰もいない
高齢者	<u>25.7%</u>	23.2%	22.8%	17.3%	<u>20.2%</u>
障がい者	17.6%	<u>53.3%</u>	15.8%	26.8%	<u>14.0%</u>

⑤ ケアラーの相談先 【高齢・障がい調査 各P31 (26)】

相談先は、高齢者のケアラーは「地域包括支援センター」の割合が高いが、障がい者では「家族」の割合が高い。

(複数回答)

	家族	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	介護サービス事業所	病院
高齢者	53.5%	<u>54.8%</u>	43.2%	19.7%	21.6%

	家族	市町村	相談支援事業所	障害福祉サービス事業所	病院
障がい者	<u>54.7%</u>	29.9%	53.0%	45.1%	30.4%

⑥ ケアラーが求めている支援 【高齢・障がい調査 各P32 (27-1)】

高齢者、障がい者ともに大半が、「ケアラーが相談できる人や場所」や「ケアラーの負担を軽減する支援」のほか「精神的な支え」を必要としており、一方で「経済的支援など」については低くなっている。

(複数回答)

	ケアラーが相談できる人や場所	ケアラーの負担を軽減する支援	世話を必要としている人へのサービス	ケアラーの精神的な支え	その他(経済的支援など)
高齢者	<u>85.8%</u>	82.7%	82.2%	<u>75.2%</u>	25.4%
障がい者	84.3%	89.7%	<u>90.6%</u>	<u>79.3%</u>	23.0%

2 相談支援機関調査結果

(1) ケアラー支援に関する認知度 【相談機関調査 P4 4】

「全ての職員が知っている」と回答した機関は4割程度にとどまっている。

全ての職員が知っている	多くの職員が知っている	一部の職員は知っている	いずれの職員もあまり知らない	知らない
<u>39.9%</u>	23.8%	20.9%	13.0%	2.4%

(2) 必要と考えるケアラー支援の内容 【相談機関調査 P7 7-1】

「ケアラーの早期発見と相談支援」の割合が最も高く、次いで、「関係機関の連携などサービス提供体制の整備」となっている。

(複数回答)

ケアラーの早期発見と相談支援	関係機関の連携などサービス提供体制の整備	ケアラー支援に関する理解の促進	ケアと仕事などの両立支援
<u>71.4%</u>	<u>62.7%</u>	57.0%	44.2%

(3) 道や市町村に求める取組み内容 【相談機関調査 P8 7-2】

「相談窓口の設置、人材の養成・確保」の割合が最も高く、次いで、「ネットワーク構築などサービス提供基盤の整備」となっている。

(複数回答)

相談窓口の設置 人材の養成・確保	ネットワーク構築など サービス提供基盤の整備	ケアラー支援に関する意識醸成	職場理解の促進
<u>63.5%</u>	<u>61.3%</u>	53.4%	49.3%

3 ヤングケアラーの調査結果

(1) ヤングケアラーという言葉の認知度 【ヤングケアラー調査 P2 7-(1)】

「内容を知っている」と回答した人が、1割前後となっている。

【道調査結果】

	内容を 知っている	よく知らない	聞いた ことはない
中学校2年生	9.6%	14.6%	75.4%
全日制高校2年生	14.2%	12.8%	72.7%
定時制高校2年生	12.9%	16.3%	69.7%

※ 国調査結果

	内容を 知っている	よく知らない	聞いた ことはない
	6.3%	8.8%	84.2%
	5.7%	6.9%	86.8%
	6.0%	7.7%	85.5%

(2) ヤングケアラーの割合（自分が世話をしている家族の有無）

【ヤングケアラー調査 P3 2-(1)】

自分（注）が世話をしている家族が「いる」と回答した人の割合は、中学2年生で3.9%、全日制高校2年生で3.0%、定時制高校2年生で4.5%となっている。

【道調査結果】

区分	いる
中学校2年生	3.9%
全日制高校2年生	3.0%
定時制高校2年生	4.5%

※ 国調査結果

いる
5.7%
4.1%
8.5%

（注）今回のアンケートに回答した
中高生をさす

(3) ヤングケアラーの状況

① ヤングケアラーが世話をしている家族の状況等 【ヤングケアラー調査 P3 2-(2)】

自分が世話をしている家族との続柄は、いずれも「きょうだい」が最も高い。

【道調査結果（複数回答）】

	きょうだい	祖父母	父母
中学校2年生	72.6%	22.2%	12.1%
全日制高校2年生	54.3%	27.9%	19.3%
定時制高校2年生	50.0%	25.0%	12.5%

※ 国調査結果

	きょうだい	祖父母	父母
	61.8%	14.7%	23.5%
	44.3%	22.5%	29.6%
	41.9%	16.1%	35.5%

世話の頻度は、中学校2年生及び全日制高校2年生の約半数が「ほぼ毎日」となっている。

【道調査結果】

	ほぼ毎日	週に3~5日	週に1~2日
中学校2年生	57.3%	20.6%	15.7%
全日制高校2年生	46.4%	17.9%	18.6%
定時制高校2年生	37.5%	25.0%	37.5%

※ 国調査結果

	ほぼ毎日	週に3~5日	週に1~2日
	45.1%	17.9%	14.4%
	47.6%	16.9%	10.4%
	35.5%	12.9%	16.1%

平日1日あたりの世話にかかる時間は、中学校2年生では「3時間未満」が、全日制高校2年生では「日によって違う」が最も高い。

【道調査結果】

	3時間未満	3~7時間	7時間以上	日によって違う
中学校2年生	35.1%	16.5%	1.6%	24.2%
全日制高校2年生	27.1%	17.1%	2.1%	32.9%
定時制高校2年生	12.5%	25.0%	0.0%	50.0%

※ 国調査結果

	3時間未満	3~7時間	7時間以上
	42.0%	21.9%	11.6%
	35.8%	24.4%	10.7%
	19.4%	25.8%	9.7%

② 学校生活への影響等 【ヤングケアラー調査 P8 10】

「特にない」が最も高く、次いで「自分の自由になる時間がない」となっている。

【道調査結果（複数回答）】

	自分の自由になる時間がない	友人と遊べない	勉強する時間がとれない	特にない
中学校2年生	19.0%	15.3%	10.5%	54.0%
全日制高校2年生	20.7%	13.6%	12.9%	63.6%
定時制高校2年生	12.5%	12.5%	12.5%	25.0%

※ 国調査結果

	自分の自由になる時間がない	勉強する時間がとれない	特にない
	20.1%	16.0%	58.0%
	16.6%	13.0%	52.1%
	19.4%	12.9%	58.1%

※各項目で「よくある」、「たまにある」を合算した割合

③ ヤングケアラーが世話の悩みについて相談した経験の有無

【ヤングケアラー調査 P11 13-(1)】

中学校2年生と全日制高校2年生の約8割が「ない」と回答している。

また、その理由は、「誰かに相談するほどの悩みではない」が最も高い。

【道調査結果】

	ない
中学校2年生	81.5%
全日制高校2年生	79.3%
定時制高校2年生	37.5%



【相談しない理由】

誰かに相談するほどの悩みではない	家族外の人に相談するような悩みではない
77.2%	14.9%
85.6%	15.3%
100.0%	33.3%

※国調査結果

	ない
中学校2年生	67.7%
全日制高校2年生	64.2%
定時制高校2年生	51.6%



誰かに相談するほどの悩みではない	家族外の人に相談するような悩みではない
74.5%	15.3%
65.0%	17.8%
62.5%	6.3%

④ 学校の先生や周りのおとなに支援してほしいこと 【ヤングケアラー調査 P12 15】

「特にない」が最も高く、次いで「自由に使える時間がほしい」となっている。

【道調査結果（複数回答）】

	特にない	自由に使える時間がほしい	自由に過ごせる場所がほしい	家庭への金銭面での支援	わからない
中学校2年生	75.4%	7.3%	4.8%	2.8%	4.0%
全日制高校2年生	71.4%	7.9%	6.4%	7.9%	7.9%
定時制高校2年生	50.0%	0.0%	25.0%	12.5%	12.5%

※国調査結果

	特にない	自由に使える時間がほしい	学校の勉強や受験勉強などのサポート	進路や就職など将来の相談に乗ってほしい	自分の今の状況について話を聞いてほしい
中学校2年生	45.8%	19.4%	21.3%	16.3%	12.9%
全日制高校2年生	39.7%	17.9%	18.9%	17.3%	16.6%
定時制高校2年生	45.2%	22.6%	12.9%	12.9%	6.5%

4 学校調査結果

(1) ヤングケアラーという言葉の認知度 【学校調査 P8 3】

「言葉は知っているが、学校として特別な対応をしていない」が最も高い。

【道調査結果】

	言葉は聞いたことがあるが具体的には知らない	言葉は知っているが学校として特別な対応はしていない	言葉を知っており学校として意識して対応している
中学校	2.4%	<u>51.6%</u>	44.6%
全日制高校	6.1%	<u>64.6%</u>	26.8%
定時制高校	8.0%	<u>68.0%</u>	20.0%

※ 国調査結果

	言葉は聞いたことがあるが具体的には知らない	言葉は知っているが学校として特別な対応はしていない	言葉を知っており学校として意識して対応している
	15.1%	37.9%	20.2%
	15.7%	53.0%	9.6%
	18.5%	48.1%	22.2%

(2) ヤングケアラーと思われる子どもの有無 【学校調査 P9 4-(1)】

校内にヤングケアラーと思われる子供は「いない」と回答したのは中学校が最も高い。

【道調査結果】

	いる	いない
中学校	17.5%	<u>67.5%</u>
全日制高校	23.8%	40.2%
定時制高校	40.0%	44.0%

※ 国調査結果

	いる	いない
	46.6%	34.0%
	49.8%	16.5%
	70.4%	11.1%

(3) ヤングケアラーへの対応状況 【学校調査 P10 5】

中学校では「学校以外の外部の支援につないだケースがある」が最も高く、全日制高校では、「学校内で対応している」が最も高くなっている。

【道調査結果（複数回答）】

	学校内で対応している	学校以外の外部の支援につないだケースがある	要保護児童協議会策に通告したケースがある
中学校	38.5%	<u>52.3%</u>	12.3%
全日制高校	<u>64.1%</u>	23.1%	12.8%
定時制高校	50.0%	40.0%	10.0%

※ 国調査結果

	学校内で対応している	学校以外の外部の支援につないだケースがある	要保護児童協議会策に通告したケースがある
	37.9%	43.0%	19.4%
	62.9%	23.4%	8.1%
	52.6%	31.6%	15.8%

(4) 必要と考えるヤングケアラー支援の内容 【学校調査 P9 4-(3)】

「教員がヤングケアラーについて知ること」が最も高い。

【道調査結果（複数回答）】

	教員がヤングケアラーについて知ること	子ども自身がヤングケアラーについて知ること	子どもが教員に相談しやすい関係をつくること
中学校	<u>65.9%</u>	58.1%	61.6%
全日制高校	<u>47.6%</u>	42.7%	42.1%
定時制高校	<u>52.0%</u>	52.0%	44.0%

※ 国調査結果

	教員がヤングケアラーについて知ること	子ども自身がヤングケアラーについて知ること	子どもが教員に相談しやすい関係をつくること
	86.6%	69.2%	73.9%
	83.5%	76.7%	66.3%
	77.8%	70.4%	66.7%

5 スクールソーシャルワーカー調査結果 【調査 P1 4】

スクールソーシャルワーカーに対し、ヤングケアラーに必要と思われる支援について質問したところ、「教員がヤングケアラーについて知ること」が最も高かった。

【道調査結果（複数回答）】

	教員がヤングケアラーについて知ること	子ども自身がヤングケアラーについて知ること	子どもが教員に相談しやすい関係をつくること
スクールソーシャルワーカー	<u>95.7%</u>	80.4%	84.8%